

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	予 算 特 別 委 員 会 環 境 厚 生 分 科 会	会 議 場 所 第 1 委 員 会 室	
		担 当 職 員 山 末	
日 時	平 成 3 1 年 3 月 1 5 日 ( 金 曜 日 )	開 議	午 前 1 0 時 0 0 分
		閉 議	午 前 1 0 時 2 8 分
出 席 委 員	◎ 富 谷 ○ 並 河 長 澤 大 塚 三 宅 小 松 平 本 西 口		
理 事 者 出 席 者			
事 務 局	山 末 主 事		
傍 聴 者	市 民 0 名	報 道 関 係 者 1 名	議 員 0 名

## 会 議 の 概 要

### 1 開会

### 2 市長質疑項目の確認

#### <富谷委員長>

次の全体会議で市長質疑項目の確認を行うため、論点を確認したい。まず、川と海つながり共創事業経費について、「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」具現化の取り組みについて、今後の方向性や事業の進め方をどのように考えているのかということ論点としている。特に、マイバッグの作成について委員からの質疑等があり、霧の芸術祭とコラボをした中でマイバッグを作成していくということで、手法としてどうなのかということがあったと思うが、それ以外でつけ加えたい内容があれば意見をいただきたい。

#### <平本委員>

概ね委員長の説明のとおりだが、私が気になっているのは、市民参加型で進めていくということについて、どのように市民に参加を求めていくのかということがはっきりと見えない。ターゲットもはっきりとしていないところがあるので、コンセプトをもう少ししっかりと持っていただきたいという思いがある。

#### <小松委員>

目的はエコバッグを使うことによりプラスチックごみを減らすということだと思うが、具体性を持って考えているのかを聞きたい。

#### <西口委員>

マイバッグは自分で確保して買い物に行くのが基本だと思う。マイバッグが確実に普及するような実効性が見えやすい手法を築いてもらわなければならないと思う。

#### <平本委員>

事業の名称はかめおかプラスチックごみ宣言関連経費だが、理事者からの説明ではエコバッグの話しか出てこない。ここが大きな問題点である。プラスチックごみゼロ宣言を行って、プラスチックごみを出さないように取り組みを進めていくが、決してレジ袋だけが対象ではないと思う。市民の関心を、レジ袋だけではなくプラスチックごみの排出自体をとめていかなければならないという意識付けを行うことが肝心だと思う。コンセプトや対象がはっきりしない中で、レジ袋のかわりにエコ

バッグを配るのではなく、もう少し市民啓発を進める必要があるのではないかと考える。

<並河委員>

亀岡市のごみの漂流の実態などを認識してもらうような啓発を行わなければなかなか納得が得られないと思う。もう少し具体的に計画を立てていくべきだと考える。

<長澤委員>

今後、条例が提案されてくると思う。その中で、新聞報道によると、事業者に対して説明会や意見交換をされているが、そのあたりの進捗状況を執行部から説明を受ける必要があると考える。

<富谷委員長>

ただいまの意見を踏まえて全体会で説明していきたいと思う。次に、家庭相談員等設置経費について、人材確保と安定的な体制構築についてを論点としたが、ほかに意見はあるか。

<平本委員>

子育て世代包括支援センターBCOME（びーかむ）等を設置したことにより、体制はほぼできつつあるかと思うが、あくまで体制を構築できたというところであり、マンパワーが非常に手薄ではないかと以前から感じている。現在、非常勤嘱託職員が家庭相談員として対応されているが、条件面に課題があり、人材確保ができていないと思う。現在、5人分の予算がありながら、4人で対応されている。新聞記事でも出ていたように、児童虐待の件数がふえたということではなく、潜在的な虐待の掘り起こしができてきたとのことである。数字がふえている以上、人数を充足していかなければならない。機構改革も含めて市長の意気込みは十分にわかるが、そこに制度、体制がついていけない現状があるため、足並みをそろえてもらいたい。今後、こども未来部が創設されても全庁的に体制づくりをしていかなければならないと思っているため、さらに踏み込んで話が聞ければと思っている。

<並河委員>

専門性が問われるため、しっかりと体制を整えてほしいという思いがある。また、定員が5人であれば、5人を確保していただくよう努力してほしいと考えている。その点についても市長に質疑したい。

<大塚委員>

家庭相談員の一番大きな役割は、いじめやDV等に対する学校・家庭での対応か。行政が何を求めてこの家庭相談員を設置しているのか。

<富谷委員長>

家庭相談員等設置経費については、ひとり親家庭を重視していると思う。DV等もあるかもしれないが、家庭の中で起こる総合的な相談の窓口として設置されているのではないか。

<並河委員>

限られた人数では大変なので、庁内での連携も必要だと思う。

<富谷委員長>

市長の決意や今後の進め方を具体的に聞きたい。処遇に関しては、予算には限りがあるが、人材確保をするための取り組みがあれば聞きたい。

<小松委員>

家庭相談員のケアができる体制もつくってほしいと思う。

<西口委員>

いろいろな問題が出てくるので、全国の専門家等に伺いを立てたり、協定を結ぶな

どして、アドバイスをしてもらえる人を確保してバックアップをしていかなければならないと思う。

<平本委員>

以前にもスキルのすごく高い家庭相談員がおられたが辞職された。辞職された後に、亀岡市のアドバイザーとして入ってもらえないのかと担当課に聞いたら、それは難しいということだった。相談員が相談できるスキルの高いアドバイザー的な人がいれば理想的だと思う。

<並河委員>

お互いに共有することは大事である。研修等、スキルを上げるための支援も行政として必要だと思う。

<富谷委員長>

これらの意見を総括して全体会に臨みたい。

散会 ～ 10 : 28